

金沢大学 資料館だより

第35号

キンストレーキ修復記念・特別展示

当館では、毎年度上半期に新入生を主な対象とした新歓展を開催しています。その中で、今年度は4月1日から6月24日までの約3箇月間、キンストレーキを中心とした医学系資料展「キンストレーキ修復記念・特別展示」を行いました。



キンストレーキとは

近代医学の発展期となった19世紀、当時は解剖用死体が慢性的に不足しており、解剖用死体に代わる蠟製の人体解剖模型にも高価で扱いが難しいという欠点がありました。そこに登場したのが、文政5年（1822）にフランスの解剖学者ルイ・トマジエローム・オズーが考案した紙製の人体解剖模型、キンストレーキです。

安価で分解も可能なキンストレーキは、教材として解剖学の発展に、ひいては医学の発展に大きく貢献しました。日本では、幕末に入ると数体が輸入されましたが、大変希少であったため、原物を基にして複製品の製作も進められたといえます。

オズー作のキンストレーキは現在、国内では本学の男性体1体・福井市立郷土歴史博物館の男性体と女性体各1体・長崎大学の男性体1体の計4体の現存が確認されています。

CONTENTS

- 2 …… 新歓展「金沢大学へようこそ！」
キンストレーキ修復記念・特別展示レポート
大学博物館等協議会・博物科学会参加レポート
- 3 …… 資料館事業報告
平成21年度の移管・寄贈資料
平成22年度資料館スタッフ紹介
- 4 …… 開催案内



新歓展「金沢大学へようこそ！」

期間：9月30日(木)まで
場所：金沢大学資料館展示室

前身校から現在の金沢大学に至る歴史を、様々な資料を交えて紹介しています。

また、キンストレキ修復記念・特別展示の終了に伴い、一部展示替えを行いました。企画コーナー「資料館お宝紹介」と題して、当館ホームページや「資料館だより」の過去号でご紹介してきた資料を一堂に展示しています。

→企画コーナー「資料館お宝紹介」
↓金沢大学の歴史



キンストレキ修復記念・特別展示レポート

明治2年(1869)、加賀藩医を勤めていた蘭学医・黒川良安が長崎で購入し持ち帰ったキンストレキは、金沢藩医学館より金沢医科大学を経て本学の医学部へと受け継がれ、長きにわたって解剖学の教材として使用されてきました。



教材としての役目を終えた後は本学の医学部記念館に取められていましたが、明治15年の修理から125年余りを過ぎた平成20年(2008)、劣化の進行をうけて修復が行われることが決定しました。

修復には1年半を要しましたが、昨年度末にようやく帰学。修復完了を記念して行われた本展示は、約3箇月の開催期間中に2,012人の来場を数え、マスメディアにも取り上げられるなど、好評を博しました。

※キンストレキは現在、医学部記念館に収蔵されています。医学部記念館のご観覧には、事前の申請が必要となります。

(利用時間は平日の10:00～16:00です)



←既製の台座は鉄製であるが、本学のキンストレキは木製で作製された台座に付け替えられている。



大学博物館等協議会・博物科学会参加レポート

多くの大学博物館が加盟している大学博物館等協議会の大会が、6月24日・25日の2日間にかけて東北大学を会場に開催されました。

当館を含め全国26機関96名が参加した今年度の大会では、平成24年度(2012)に迫った博物館法施行規則の改正への対応という

緊急度の高い課題もあり、教育機関である大学に附する大学博物館の役割を改めて考えさせられました。

引き続き行われた博物科学会では、2日間の大会期間中に計24本の口頭発表が行われました。当館からは、共同研究員としてお世話になっている北陸先端科学技術大学院大学の堀井洋助教が登壇し、現在も順次進行中である当館のヴァーチャルミュージアム構想についての発表を行いました。また、ポスター発表では、当館の客員研究員・上田啓未氏が「KuKuRI*」の展示利用についての発表を行いました。

全国にわたる加盟館が一堂に集う同大会への参加は、来館者と博物館相互の関係や博物館の在り方の変化、さらには、ほぼ標準化しつつあるデジタル展示への対応など、各館の様々な取り組みや全国的な動向を知るとともに、自館の在り方を再認識する貴重な機会となりました。

*学術研究プロジェクト「遍プロジェクト」開発による歴史資料活用プラットフォーム。



資料館 事業報告



金沢大学資料館ヴァーチャルミュージアム構想

「金沢大学資料館ヴァーチャルミュージアム構想」は、当館所蔵資料を従来の学術研究資料に止めず、これらに地域情報資源としての価値を見出し、情報通信技術を活用して資料情報をデジタル化し、インターネットを介して全世界へ公開・発信することを目的としています。

6箇年計画で始まった本構想の初年度に当たる昨年度は、旧制四高物理機器のデジタル画像データ約2,000カットの作成を行いました。今年度は、上記のデジタル画像データを基にしたデータベースの構築に加えて、新たに石川師範学校等の古写真のデジタル画像データを作成する予定です。



↑デジタル展示用に、資料を6方向よりそれぞれ撮影(写真は「六分儀」)



金沢大学史アーカイブ整備事業

平成13年(2001)の金沢大学法人化以降、保存期間を満了した移管対象法人文書の当館への移管が順次進められてきました。しかし、移管基準や法人文書の重要性の周知不足、さらには、収蔵場所や人員の不足などにより、移管待ち文書の滞留が起こり、近年、当館が担う「文書館機能」は停滞に陥っていました。

このような状況を解消すべく、昨年度より開始された「金沢大学史アーカイブ整備事業」は、本学の「知的財産」であり同時に本学の「歴史資料」ともなる学内で生成される文書を、適正に収集・選別し、保管することを目的としています。

昨年度は、収蔵庫内の移管済み文書の整理と各部局に滞留していた移管待ち法人文書の受け入れ・整理を行いました。



↑事業開始前の収蔵庫内の法人文書



↑選別・整理を終えた法人文書

平成21年度の移管・寄贈資料

移管

金沢病院図面等 宝町地区病院部
航空写真(旧仙石キャンパス)
南地区事務部
金沢大学法人文書 金沢大学各部局

寄贈

半田正身氏旧蔵資料一式 岸洋一氏
計算尺・コンパス 森茂氏
尋常小学校修身掛図 呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)
古谷健太郎氏カメラ一式 竹村松男氏
ハンドスペクトロスコープ・他1点 和田敬四郎氏

昨年度も多くの方々から貴重な資料の数々を移管・寄贈いただきました。当館にて大切に保管いたして参ります。改めて感謝申し上げます。



↑古谷健太郎氏カメラ



平成22年度資料館スタッフ紹介

館長

古畑 徹(人間社会研究域歴史言語文化学系教授)

資料館委員

古畑 徹(資料館長)
柴田 正良(附属図書館長)
中村 正人(人間社会研究域法医学系教授)
市村 宏(医薬保健研究域医学系教授)
鈴木 新一(情報部長)
奥野 正幸(理工学域自然システム系教授)

資料館研究員

竹村 松男(金沢大学名誉教授)
守屋 以知雄(金沢大学名誉教授)
馬替 敏治(金沢大学名誉教授)
本康 宏史(石川県立歴史博物館学芸専門員)
谷本 宗生(東京大学大学院教育学研究科助教)
堀井 美里(金沢大学人間社会環境研究科)
沢田 史子(金沢星陵大学講師)
上田 啓未(デジタルアーキビスト)
ジェレミー・フィリップス(翻訳家)
山本 晃平(株式会社COM-ONE)

事務職員

井川 俊昭(情報部情報企画課)
今井 育子(情報部情報企画課総務係)
堀井 雅弘(情報部情報企画課総務係)

(敬称略)

開催案内



特別展「前身校の先達たち -四高と医科大の10人-」

期間：10月15日(金)～11月12日(金) ※開催期間中の開館時間は、10:00～17:00となります。

場所：金沢大学資料館展示室

← 四高柔道部集合写真(明治35年頃)
1列目中央が吉村寅太郎校長、左隣が西田幾多郎教授



平成24年(2012)に金沢大学は創基150年を迎えます。

キャンパス総合移転や改組などの様々な経緯を経て現在に至る本学も、新制大学としての歴史は150年の内の60数年。新制大学以前には、100年近くの前身校の歴史があります。

今年度の特別展では、この長きにわたる歴史を創った前身各校の内、第四高等学校と金沢医科大学から西田幾多郎・鈴木大拙・井上靖・木村栄・高安右人を始めとする10人の著名な出身者を取り上げ、本学の精神・理念の源流を成す前身校の時代を振り返ります。



企画展「Re+Exhibition -第四高等学校物理実験機器の魅力-」

期間：10月29日(金)～10月31日(日)

場所：石川四高記念文化交流館

当館所蔵資料の中に、本学の前身校の一つである旧制第四高等学校で使用されていた物理実験機器があります。

当館では昨年度、ヴァーチャルミュージアム構想の第一弾として、255点に及ぶ物理実験機器のデジタル化を行いました。



↑ 経緯儀

本展示では、それらのデータを活用し、デジタル資料展示と実物資料展示との融合を試みます。

魅力的な外観をそなえた近代の物理実験機器をきっかけに、物理学を身近に感じていただける機会となれば幸いです。



← 物理機器圖入目録



写真展「よみがえる城内キャンパス」

期間：10月29日(金)～11月11日(木)

場所：金沢城公園鶴の丸休憩所

← 雪の共通一次 石川門へ向かう受験生(昭和60年)



かつて金沢大学は、金沢城址にキャンパスの一つを置いていました(丸の内キャンパス〈通称・城内キャンパス〉)。同地は現在、公園として整備され広く親しまれていますが、往時の校舎群は残っておらず、丸の内キャンパス時代を知る人々の中には寂寥を感じる方も多いようです。

そこで、昨年度に引き続き、ホームカミングデイの一環として金沢城公園内に会場を設け、丸の内キャンパス時代の写真展を開催します。当時を経験された方々に限らず、皆様のご来場をお待ちしております。

資料館
第35号
だより

2010年9月15日発行

編集・発行 金沢大学資料館

〒920-1192 金沢市角間町

Tel : 076(264)5215 / Fax : 076(234)4050

Mail : museum@adm.kanazawa-u.ac.jp

HP : http://muse.w3.kanazawa-u.ac.jp

